

大阪府立大学第21回留学生日本語弁論大会報告書

URL

<http://hdl.handle.net/10466/00016571>

大阪府立大学

第 21 回留学生日本語弁論大会

報告書

平成 26 年 11 月 1 日(土)
大阪府立大学 学術交流会館



大阪府立大学留学生後援会

目 次

第 21 回留学生日本語弁論大会報告書に寄せて	1
第 21 回留学生日本語弁論大会実施要領	2
出場者および入賞結果一覧	3
弁論要旨	
金賞 「私が思う『日本の美しさ』」 宗 潔	4
銀賞 「障壁を越えること」 モクダド・エシア	5
銅賞 「日本人の Yes と No」 許 元愷	7
奨励賞「旅行 in Japan」 イ・ダウン	8
奨励賞「日本留学で学んだ『生き方』」 グェン・クァン・ティン	9
奨励賞「頑張るしかない ～善意で交流～」 クルー・ベンジャミン	11
奨励賞「名前のない関係」 サム・ミン・チ	12
奨励賞「おばあさんの立場、労働者の状況」 ボドワン・ポール	14
奨励賞「スマイルは最強の『武器』だ」 叶 玲燕	15
奨励賞「日本のお辞儀の文化」 ラム・ティ・ション・ビン	16
第 21 回留学生日本語弁論大会寄附者名簿	18

大阪府立大学

第 21 回留学生日本語弁論大会

報告書に寄せて

第 21 回留学生日本語弁論大会は、白鷺祭の一環として 11 月 1 日(土)に開催され、中国、韓国、台湾、ベトナム、フランスからの留学生 10 名がスピーチを行いました。今回の大会での発表レベルは非常に高く、回を重ねるごとに留学生の持つスピーチに関する能力、すなわちスピーチの目的に対して論旨を立てて、人にわかりやすく話す能力が向上してきていると感じます。特に、起承転結のメリハリ、笑いを取るどころや重要なところを十分に考えて準備されたスピーチばかりで、非常に楽しませてもらいました。これは留学生のみならず日本人の学生にも言えることですが、初年次ゼミや専門ゼミなどでいろいろな人とコミュニケーションをとるとともに、多様な学生や教員にわかりやすく説明するという訓練を積み重ねていることの成果だと思えます。

今年の金賞は、中国からの留学生 宗潔さんの「私が思う『日本の美しさ』」という発表でした。このなかで、宗さんは、日本の四季における自然の美しさなど目に見える美しさだけでなく、笑顔や挨拶から垣間見える人の優しさなど内面的な美しさを含めて話していました。我々自身の気がつかない内面的な美しさを、いろいろな観点から語っていただきました。銀賞のモクダド・エシアさんの「障壁を越えること」、銅賞の許元愷さんの「日本人の Yes と No」をはじめとするすべてのスピーチについても、明確な論旨でわかりやすく話すとともに、落とすところは落とすというメリハリのある発表であり、それぞれ印象の深いものでした。全員の発表内容を報告書内にまとめておりますので、ぜひご一読ください。

本大会はロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺、堺市、KoKoC ならびに現役・OB の先生方等のご支援で実現しています。厚く御礼申し上げます。大会の企画と司会を務めた国際交流サークルオリオンおよび大阪府立大学留学生総会、審査員をお引き受けいただいた堺おおいずみロータリークラブ高井浩氏、国際ソロプチミスト堺会長池田弘子氏、堺市国際課長小谷行彦氏、本学国際交流センター長寺迫正廣教授に深く感謝いたします。また、発表者の友人、指導教員あるいはご支援いただいております多くの方々に対して、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

大阪府立大学留学生後援会
会長 杉村延広

大阪府立大学 第21回留学生日本語弁論大会 実施要領

1. 目的 大阪府立大学の大学祭（白鷺祭）イベントの一環として位置づけ、留学生の日本語学習を奨励するとともに、広く留学生と日本人相互の国際理解と交流を促進する。
2. 日時 平成26年11月1日（土）
14：00～16：00 弁論大会
16：00～17：00 交流会
3. 場所 大阪府立大学 C1棟 学術交流会館多目的ホールおよびサロン
（堺市中区学園町1-1）
4. 概要
 - (1) テーマ 「日本人との交流経験」
 - (2) 弁論者 10名の留学生
 - (3) 弁論時間 各5分
 - (4) 審査員
堺市 国際課長 小谷 行彦
堺おおいずみロータリークラブ 高井 浩
国際ソロプチミスト堺 会長 池田 弘子
大阪府立大学国際交流センター長 寺迫 正廣
大阪府立大学留学生後援会会長 杉村 延広
 - (5) 賞
金 賞（1名） 賞状・副賞
銀 賞（1名） 賞状・副賞
銅 賞（1名） 賞状・副賞
奨励賞（7名） 賞状・副賞
5. 主催 大阪府立大学留学生後援会
共催 大阪府立大学
後援 堺市／堺市内ロータリークラブ／国際ソロプチミスト堺
協力 大阪府立大学留学生総会／国際交流サークルオリオン

出場者および入賞結果一覧

	氏名	弁論タイトル
金賞	宗 潔 (経済学研究科 M1 年)	「私が思う『日本の美しさ』」
銀賞	モクダド・エシア (人間社会学研究科 特別聴講学生)	「障壁を越えること」
銅賞	許 元愷 (生命環境科学研究科 D1 年)	「日本人の Yes と No」
奨励賞	イ・ダウン (工学域 特別聴講学生) グエン・クワン・ティン (工学研究科 D1 年) クルー・ベンジャミン (工学研究科 M1 年) サム・ミン・チ (人間社会学部 特別聴講学生) ボドワン・ポール (人間社会学研究科 特別聴講学生) 叶 玲燕 (経済学研究科 M1 年) ラム・ティ・ション・ビン (工学研究科 D3 年)	「旅行 in Japan」 「日本留学で学んだ『生き方』」 「頑張るしかない ～善意で交流～」 「名前のない関係」 「おばあさんの立場、労働者の状況」 「スマイルは最強の『武器』だ」 「日本のお辞儀の文化」



金賞 宗 潔さん



銀賞 モクダド・エシアさん



銅賞 許 元愷さん



審査員と出場者のみなさん

<金賞> 私が思う「日本の美しさ」



経済学研究科 M1 年

宗 潔 (中国)

日本に来る前に、よく日本のドラマを見ていました。きれいな町、青く澄んだ空、春の桜、秋の紅葉などいっぱい映し出されました。日本に来て自分の目で実際に関西の美しいものを見ることができました。春の大阪城の桜、夏の琵琶湖の花火、秋の嵐山の紅葉、冬の神戸の中華街、どれも好きでたまらないです。

今年の 2 月に、一年ぶりに母国に帰りました。親戚と友達にいろいろ日本のことについて聞かれました。その時、皆に「日本の笑顔と挨拶が大好きだ」と答えたことを良く覚えています。確かに世界のどこでも、美しい景色はありますが、日本人の「笑顔」と「挨拶」を思い出したら、とても心が温かくなりました。

「笑顔」と「挨拶」は普通だと考えている人が多いでしょう。でも、私から見ると、それは相手に対して友好的であること、また相手に対しての思いやりを示すことだと思いません。なぜなら、例えば、去年初めて日本に来て、関西空港に着きました。関空まで迎えに来てくださったスクールバス運転手の笑顔は、今でも忘れられません。彼はここにこして私たちに近づいて、「お疲れ様です」と挨拶してくれました。中国にいた時、授業で日本人の先生と話すチャンスが少なくなかったのですが、最初は自分の日本語に自信が持てなくて、話すことを不安に思っていました。でも、運転手の笑顔を見た瞬間、何か緊張感は半分ぐらいやすらぎ落ち着いた気がしました。その後、初めて会う人に何を言ったらいいかなあと迷った時、相手の人が「お疲れ様です」と挨拶してくれると、心強くなりました。生活の中で一番簡単な挨拶ですけど、挨拶してもらうことによって、緊張感がなくなり、相手と自然に話すことができました。「笑顔」と「挨拶」は本人が気がつかずに、相手に勇気を与える魅力を持っていると思います。

そして、学校もバイトも始まりました。毎日スクールバスに乗って学校に行きました。乗る時に「こんにちは」、降りる時に「ありがとうございます」、と笑顔で毎日ぐらい運転手と挨拶をしました。最初は「やっぱり日本人は真面目で、挨拶という小さなことでもちゃんとしているなあ、やっぱり慣れていないなあ」と思っていたこともあります。でも、習慣として慣れたら、やっぱり「笑顔」と「挨拶」には魅力があると思います。毎日気分

は「晴れ」か「曇り」か自分でもわからないですけど、相手の笑顔を見て、また挨拶してくれて、「もう一人ではない」と思うのではないのでしょうか。

でも、この間バイト先で、あることに気づきました。若い同僚に「こんにちは」、「お疲れ様です」と声をかけても、返事をしてくれない場合が多いのです。確かに、今の生活のリズムは速くなったり、人間関係も以前より薄くなったりしているので、多くの方はそれはしかたがないと思うことが多いでしょう。でも、私が思う「日本の美しさ」は一人の力ではなく、リレーのようにみんなでやるともっと魅力があると思います。日本はきれいな景色とか、美しい習慣とか持っているのに、私が思う美しさの「笑顔」と「挨拶」を失ってくると、もったいないかなあ、とそう思います。ですから、私は「日本の美しさ」としての「笑顔」と「挨拶」のバトンを持ち続けて出会った人に渡したいと思います。

<銀賞> 障壁を越えること



人間社会学研究科 特別聴講学生
モクダド・エシア（フランス）

皆さんこんにちは。フランス国立東洋言語文化大学から来ましたモクダド・エシアです。大学を卒業して、今は大学院の特別聴講学生として大阪府立大学の人間社会学研究科で留学しています。日本に来るのは5回目で、5年前から日本に深い興味を持っています。4年間で日本語の勉強をして、日本が好きな人とも沢山出会えて、日本人の友達もできました。

私の一人の友達が、ずっと前から日本が大好きで、2年前に、一人で2週間、初めて日本に旅行しに来ました。日本語を話せなくて、日本に知り合いもいなくて、ホテルに泊っていました。この友達は帰国した時に、「日本人は冷たい。もう二度と行かない」と私に言いました。私の初めての日本での旅行の経験後の印象はその正反対だったので、ビックリしました。私は初めて日本に来た時に、日本語を少し話せていまして、友達の家泊まっていたので、ただの観光じゃなくて、日本で友達と遊んで、日本の家庭の雰囲気も見えて、日本での日常生活も経験しました。日本でのサービスにも人の優しさにもすごく感動して、印象に残りました。なので、外国人は日本に来て、日本語を話せるかどうかによって、感じ方が違うと思います。英語を話せる日本人が少ないと言われています。日本語を話せないのに日本に来ている人達は、例えば道に迷った時に英語で誰かに聞くとすると、

たまに無視されたり、手振りで断られたりします。そこから日本人は外国人が嫌いなのだと外国人は勘違いしたりします。それは嫌いなのではなくて、自分の英語能力に自信がないだけなのではないかと私は思います。

そして、例え日本語を話せても自分と日本人の間に壁を感じていると言う人も多いのです。それは日本人には建前、本音、敬語などの特別な文化があるからです。「日本人はすごく優しいけど、本当は何を思っているのかが分からない」、「やっと友達が出来たと思ったら、連絡が来なくなった」と日本語を勉強し始めてから何回も聞きました。言葉だけでなく、マナーの文化も違うせいで、元々悪気はないのに、相手に失礼なことをやってしまうことも多いのです。でも、建前と文化の壁の裏に何があるのかというのを探するのは楽しいと私は思います。

それを越えてみると、壁の後ろには皆は普通の人間です。国籍とは関係ないのです。日本人もフランス人もアメリカ人も中国人も、文化の違う同じ地球人です。私は4年前日本語の一言も喋れなかったのです。日本の文化のことも、日本人の考え方のことも何も知らなかったです。今になって、こんなことを認めるのは恥ずかしいけど、初めて日本に来たときに、電車の中で食べたり大きい声で電話したり、靴を脱がないで他人の家に入ったりしたこともあります。フランスではそれは普通だからやってしまいました。でも人は学ぶものです。4年間で日本語を勉強して、日本人の友達にいろんなことを教えてもらって、アドバイスしてもらったおかげでこのレベルまで進むことができたのです。まだまだ勉強中で、少し複雑な話になると理解出来なくなったりするので、これからも頑張ります。とにかく、みなさんが何人であるかに関わらず仲良く国際交流しましょう。

<銅賞> 日本人の Yes と No



生命環境科学研究科 D1 年
許 元愷 (台湾)

「私と映画に行きませんか」私の日本の友達の答えは、
「私は行きたいですが、仕事があるので、もし早く終わったら行くよ」
この場合はほとんど NO であります。

確かに日本人の答えはあいまいという指摘を外国人から受けます。それにはわけがあります。日本人ははっきりと NO を言うことが苦手です。たとえばあなたが製品を日本の会社に持って行き、日本人の担当者はこう言ったとします。

「素晴らしい製品だと思います。しかし色に少し問題がありますね。色がよければ考えられないこともないのですがね。残念です。でも上司に相談はしてみます。もし OK になったら連絡します」

外国人の人たちは商談が OK だと思います。しかし連絡がこないで外国人たちは戸惑い怒ります。その場合は NO であります。

日本人の NO は「はい」・「しかし」・「おそらく」の 3 段階だと思います。最初に相手を立てて同感し、それから否定します。最後に相手を傷つけないように表現を付け加えます。日本人に対する誤解は、日本人の同一体質にあるようです。一人ではなく皆で行動し、仲間を傷つけないように心配してきた日本人は、仲間や社会への義理を重んじます。

日本人のあいまいさは、はっきりと言わないということでもあります。発言せず口数が少ないということは、言い訳をしないということに関連します。日本人の特に男性は、言わないことが男らしさであります。覚えているビールなにかのCMがあります。

「男は黙って――」

それでは私もこれぐらいで黙ることにします。
ご清聴ありがとうございます。

<奨励賞> 旅行 in Japan



工学域 特別聴講学生
イ・ダウン (韓国)

話を始める前にもう一度自己紹介から始めようと思います。名前はイ・ダウン、韓国からの留学生です。留学生生活を始めてから今まで約 7 ヶ月の時間がたちました。長いといえれば長い時間ですが、今までの時間がすごく夢みたいだと思ってしまうぐらい楽しく過ごした自分にとっては、すごく短い時間ではないかと今は思っています。初めて空港に着いた時には留学生のみんなと同じくなんでも不思議で、楽しかったです。

そのように始まった自分の留学生活は、元々知っていた友達やサークル活動をしながらいろんな人々と触れ合うことができました。ここで一番いろんな個性を持った人々と会うことができたのはサークル「オリオン」でした。フランス・中国・ドイツ・もちろん日本の方々も、こんなに多い国からの人々に会って感じたのはやはり、「英語は無視できない」ということ。それに、言語というものは「ある限界を超えるためにはすごく多い努力が必要」ということ。それに、いろんな人とさまざまな場所に付き合いながら気づいたものとしては「人の初めの印象はとても大事」、さらに大事なことは「その印象をどのように保っていくのか」です。

これからは飲み会の例を挙げて話を進めたいと思います。今でも自分にとってはとても難しいものが「つつこみ」です。「つつこみ」(ぼけつつこみ、のりつつこみ、、等々)は、いろんなつつこみがあるらしいのですが、まだまだ自分には難しいです。そして、よくだれでも持っているような不満などを話しましたが、ある日、ある人から「ダウンは不満ばかり」と言われて、自分からはその時の雰囲気盛り上げるための不満などの言葉が相手にとっては悪い印象として作用する時もあると感じた時もありました。

このような経験のもとに最近は言葉を話す前にもっと考えて話をしたり、英語も頑張るようになって、このようなものをもう一度感じさせてくれた留学生活に、そしてこの様な機会を作ってくれた皆さんにありがたい気持ちを毎日感じています。最後に、この場を借りてこのような機会を作ってくれた皆さんに感謝の言葉で終わらせたいと思います。ありがとうございます。

<奨励賞> 日本留学で学んだ「生き方」



工学研究科 D1 年
ゲン・クワン・ティン (ベトナム)

皆さんこんにちは。

留学生の皆さんはなぜ日本に留学しましたか？恐らく日本技術を勉強するために留学した方が多いと思います。私もベトナムの大学を卒業してから海外留学をしたいと思って、日本などのことについて調べてみました。日本はロボットや車など様々な技術が世界でもトップの国であり、ベトナムの文化に少し似ているとインターネットに書いてあります。ですので、日本に留学することにしました。ところが、私は今考え直すと日本技術を勉強するよりも、日本人の「生き方」をよく体験することが出来たと思います。

「生き方」ってどんなことでしょうか。こちらの本に書いてある「生き方、人生として一番大切なこと」です。

2010年10月2日、私は初めて日本の福岡国際空港に到着しました。そして空港から博多駅に移動したときに素晴らしい日本人の子供たちを見ました。小学生たちが大きい声で人々に募金を呼びかけていました。「募金にご協力をおねがいます～」と、本当に感動して素晴らしいと思いました。2011年3月11日、東日本大震災が発生したとき、私は九州地方にいましたが、ベトナムの新聞に書いてある、被災地で10歳ぐらいの日本人の男の子についての話を読みました。その男の子は食べ物を貰うために列の最後のところに立っていました。ボランティアの人はそれをみてかわいそうに思って男の子にビスケットをあげました。ところが、男の子はすぐに食べないで他の人のために前の箱に入れてあげました。ボランティアの人が「なぜ食べないの？」と聞くと、男の子は笑顔でこう言いました。「僕よりお腹がすいている人は沢山いるんだ。僕だけ食べるのは不公平だよ」と。それを読んで私はまた衝撃を受けました。そういったような素晴らしいことを日本留学の生活の中に沢山見ることができました。

日本に来て2年後、鹿児島大学に在学していたとき、「日本人の方々にベトナムの文化を知って欲しい」、その思いを持って、「ベトナム文化交流会」を作りました。日本人・外国人はなんと70人が参加して盛り上がりました。そして、南日本新聞に大きく取材して頂き

ました。周りの人は良かったねと褒めてくれましたが、私たちは成功したと思いませんでした。なぜかと言うと、ベトナム人のチームとして成功していなかったからです。そのとき、私たちはどうやって皆で団結して成功できるかと悩んでいて、鹿児島大学稲盛アカデミーの先生に相談に行きました。そしてベトナム人留学生と一緒にリーダーシップ勉強会を作りました。日本人の先生から教えて頂いたのは「生き方」です。ある日、その先生からこの「生き方」の本を頂きました。その日、1日で読んでいて涙が出ました。私の考え方・人生がすべて変わりました。驚いたことに、素晴らしい結果がどんどん出ました。

私は当時、お土産屋さんでバイトをしていました。ある日おばちゃんのお客さんがこう言ってくれました。「兄ちゃん、有難うね、元気を貰ったよ。また来るね」と。外国人の私は、はじめてそれを聞いて心から感動しました。本当に嬉しかったです。そして、学校で自分で選んだ道が順調に進みました。特に周りの人との人間関係が改善できました。本当に良かったと思いました。ですから、私がここで立っているのは今まで会っていたすべての日本人の方々の「生き方」のおかげです。その方々に対していつも心から感謝しています。

今日その「生き方」を皆さんに伝えたいと思っています。「毎日一生懸命働くこと、感謝の心を忘れないこと、よい思い、正しい行いに努めること、素直な反省心でいつも自分を律すること、日々の暮らしの中で心を磨き、人格を高めつづけること」です。皆さんはそのような当たり前のことを一生懸命行っていくと、まさに生きる意義があるし、皆さんの夢は必ず実現できる。必ずそこに皆さんの明るい未来があると私は信じています。

ご清聴有難うございました。

<奨励賞> 頑張るしかない ～善意で交流～



工学研究科 M1 年
クルー・ベンジャミン (フランス)

皆さま、こんにちは。フランスから来たベンジャミンです。初めて日本に着いたのは去年の 4 月でした。その時、日本語は基本的な言葉しか話せませんでした。それで日本人と交流を始めた時には、いくつかの問題に気付きました。

まずは英語だけに頼ることが無理でした。国際交流の言語である英語は、自信を持って使える人が少ないです。それではコミュニケーションが難しくなります。更に、日本で外国人がまだ珍しいので、外国人のことがあまり理解されていないと思います。それで驚くようなシチュエーションも有り得ます。例えば、知り合ったばかりの学生が私に「外国人と話すのは初めてですから凄く緊張しています」と言いました。わけが全然分からないでとてもびっくりしました。「僕が怖いのかな？ひげのせいかな？」と思いました。こんな理由で、一見したところ国際交流について日本は問題がありそうです。

日本人と交流を始めたのは府大のオリオン国際サークルの皆さんとでした。私は問題が交流の邪魔になると考えていましたが、いっぱい話や旅行などが楽しく出来ました。コミュニケーションが難しかったけど、皆が頑張っとうまく行きました。外国のことがよく分からなかったけど、皆が頑張っとうまく行きました。そんな問題を気にせずに皆が頑張っとうまく出来ました。

この後で他の経験もありました。学生のごみ拾い団体と清掃したり、シンコーマシンツール株式会社という日本の会社で活動に参加したり、堺魅力発見隊の国際チームに入ったりしました。いつも同じように皆が頑張っとうまく乗り越えることが出来ました。このように交流が出来た理由は「頑張ること」です。

「頑張っって！頑張っって！」

英語でもフランス語でも訳しにくいですが、日本でその言葉がよく使われます。英語があまり出来なくても、外国人と話したことがあまりなくても、頑張ったら交流が出来ます。

その考えの中には善意が表れます。その善意とは、やりたい気持ちを持って頑張るとうまく行くと信じることです。その善意が一番大切なものです。善意があれば問題があっ

も交流はうまく出来ます。交流のことだけじゃなくて、日本でその善意がよく見えます。学生たちがごみ拾いで通路を清掃すること、それは善意です。ボランティアの先生が留学生に日本語を教えること、それは善意です。皆さん一緒にこの白鷺祭を行うこと、それは善意です。その善意のお蔭で、それとその善意を伝えることで、日本は絶対に良い国際交流が出来る国になります。

最後まで聴いていただいてありがとうございました。

<奨励賞> 名前のない関係



人間社会学部 特別聴講学生
サム・ミン・チ (ベトナム)

日本にいるのはもう 6 ヶ月になりました。こちらの生活もますます慣れました。初めて外国に住む事になるので、新しい体験を楽しむ気持ちに対して、心配な事も胸にどんどん重なってきました。知り合いが一人もない所でどうやって過ごしますか、という質問が頭の中にウロウロしていました。友達がいなのは私にとって一番怖いことです。

日本に来てから、「じゃ。。。友達を作ろう！」と自分が思っても、なかなか難しいことでした。毎日学校に来て、色々な国から来たクラスメートと勉強して、楽しかったです。しかし、教室を出ると、また孤独を感じました。言葉も通じないし、文化も違うせいで、皆に近づくことはそんなに簡単なことではありません。日本人と友達になった留学生もたくさんいて、よくフェイスブックで面白い写真をアップしています。それを見たら、「皆すごいですね」と思うと同時に、とてもうらやましい気持ちもありました。自分も頑張っているのに、なかなか友達ができないのです。ですが、友達ができるかどうかは自分の意識で決められることではないと分かったから、そんなに寂しくなかったです。自分の周りを見て、面白いことを探すようにしました。簡単なことですが、自分にとって、とても有意義なものを見つけました。それはどんなことか、今から語りしたいと思います。

今住んでいる団地は日本人と外国人と一緒に住む所です。人が多くて、自分も来たばかりなので、だれも知りません。ですが、廊下で会っても、エレベーターで会っても、皆よく声を出して、挨拶をしています。多分日本人にとっては、普通のことですが、外国人の

私にとって、それは素晴らしいことです。ここで、面白い思い出があります。その日は雨の日でした。バイトのために、早く出かけなければなりませんでした。おばあちゃんとエレベーターに乗りました。挨拶をしてから、おばあちゃんが「どこへ行きますか」と私に聞きました。「バイトに行きます」と答えた瞬間、エレベーターのドアが開きました。急いで頭を下げながら、自転車に乗って、出かけました。後ろからおばあちゃんが声を出して、「お疲れさん、行ってらっしゃい！！」ええええ。。初めて会うおばあちゃんが「行ってらっしゃい」と言ってくれました。外国人の私はちょっとびっくりしましたが、心が温かくなりました。簡単な言葉ですが、家族みたいな気持ちが感じられました。おばあちゃんが私に力をくれました。それで、その日は雨なのに、とても良い日になりました。

実は、私はコンビニでバイトをしています。生活費のために、仕事をしなければならぬので、コンビニに入りました。そこの仕事はちょっと大変ですが、面白いことも毎日あります。私が入ったばかりの時には、仕事にまだ慣れませんでした。1ヶ月、2ヶ月かかって、仕事がスムーズに出来て、毎日店に来られるお客さんの顔も覚えるようになりました。お客さんも私が外国人であることが気になるようでした。名前も覚えてくれて、時々「サム頑張ってるね」と声をかけられて、嬉しかったです。ある日、買い物に来た男性のお客様が私に向かって「明日、僕はベトナムに行きますよ」と言いました。とても面白いことでした。毎日コンビニに来られるお客さんは、学生さん、工場で働く人、会社員など様々な人がいます。お客さんに大きい声で「いらっしやいませ」と言いながら、日本人の日常の姿を見ます。面白くて、いつも楽しく仕事をやっています。

このように、今ではこちらの生活を楽しく過ごしています。仲間がいないけれど、周りの人々を見て、知らない人でも必ず面白い事がいっぱいあると思います。なんの関係もない人から力を得られて、おかしい事と思われるでしょうが、それが私の本当の気持ちです。ここにいる時間は3ヶ月しか残っていません。毎日の生活を楽しんで、もう少し深く日本を理解できるように時間を使いたいと思います。

<奨励賞> おばあさんの立場、労働者の状況



人間社会学研究科 特別聴講学生
ボドワン・ポール (フランス)

今から発表させていただきたいと思います。

まず、この弁論のテーマについて話したいと思います。なぜこのテーマに決めたかと言うと、最初にテーマに関係ある思い出を探して、すぐにある日出会ったおばあさんのことを思い出したのですが、毎日あの日の経験を考えていたら、社会的問題に行き着いてしまったのです。つまり、表面的に見るだけなら、ただフランスと日本にある面白い違いが見えてきますが、よく観察すると労働者が受けている乱暴が見えてくるのです。

それでは、大まかにあの日の経験について話させていただきたいと思います。それは、2012年の夏のことです。そのとき、私は山梨県、清里というところにあるハット・ウォールデンのレストランでウェイターの仕事をしていました。私はそこで敬語を学びました。朝は和食、昼はイタリア料理、夕方はフランス料理を作るレストランでした。ある日の昼、とても忙しかった時、5名様の御家族のお客様が来店されました。おばあさん、夫婦、そして2人の子供の家族でした。私は普通にその家族のテーブルに料理を出しました。そして、キッチンに戻ってみると、シェフとマネージャーが争っていたらしいです。私は「ポール、このピザを出したお客様に謝って！」と言われました。もちろん、それはおばあさんのテーブルのことでした。もうおばあさんたちがデザートを食べていました。。言われた通り、料理を置いてから、ちゃんと「大変お待たせいたしました。申し訳ございません」と謝りました。1秒、2秒、何も起こらず、私もテーブルの前に待っていました。すると、急に、おばあさんが震え始めました。おばあさんは「許せない」と何回も言いました。「許せない」、「申し訳ないです」というやり取りが続きました。そしておばあさんの声も震えてきました。私は「もう逃げる時間だ」と思いました。日本にいる外国人であることで、いい所は、そのような場合に日本語ができて「すみません。日本語がわかりません」と言って、逃げることができるということです。しかし、同僚とシェフはそのようなことが出来なくて皆の目の前でおばあさんに激しく怒られました。

フランスなら、このようなことが起こるわけないと思います。「日本人のおばあさんが酷い」という意味でもありません。もちろん失敗するときには、反省したり責任を負ったり謝ったりすることが当たり前だと思いますけれども、労働者がどこまで傷つけられても耐

えないといけないという問題を皆さんはどう考えられますか？フランスの場合でも日本の場合でも、国際的に言うと、このような状況に耐えることが出来ないと思います。

<奨励賞> スマイルは最強の「武器」だ



経済学研究科 M1 年
叶 玲燕 (中国)

2年前、日本に来て、はじめて一人暮らしの生活を始め、日本人の考え方も習慣も分からなかったし、料理も家事も一切できなかつたし、不安で不安でさびしかったです。しかし、その時、一番問題なのはやっぱり言葉の壁によって、日本人との交流がなかなかうまくいかなかったことだと思いました。

日本人の友達を作りたいかったのですが、なかなかできなかつたです。周りには日本人がいるけど、交流するとき失礼なことを言ってしまって、相手に怒られたことはよくあります。傷ついて、だんだん日本人との交流を避けて、日本語もしゃべりたくなくなってきました。日本に来る前の生活は順風満帆なので、その時何をしても失敗した自分のことが嫌いになってしまって、いつも笑っている自分も笑わなくなつて、進む方向を見失っていました。幸いに、その時友達の言葉に励まされて、元気をもらつて、立ち直りました。「人生は、お天気が変わるように、その時、その時で、どんどん変わる。毎日、雲ひとつない晴れの日というわけがない。現実には、雨の日だって、雪の日だってある。しかし、どんなにひどいお天気でも、時間が経てば、いずれは過ぎ去る」と友達が言ってくれました。確かに、人生もこれと一緒に、何があつても、あきらめるなら、おしまいです。

今振り返ってみると、実は一番問題なのは言葉の壁ではなくて、自信を失つて、自分なんかだめだと思ひ込むことです。いつも笑っている友達から元気をもらつて、再び自信がついてきて、笑顔で生きていきたい自分が戻りました。そして、自分の生活も変わってきました。2年前、日本人の友達を作れるはずがないと思つたこの自分は、ある日「レイエンは、レイエンであればいい」、「レイエンの笑顔が素敵、いつも笑顔を見て元気をもらえる」と日本人の友達に言ってもらつて、言葉で表現できないほどうれしかったです。

「そうだね、笑顔はやっぱり一番大事だね」と再び思うようになりました。笑顔が敵に

も自分にも勝てる武器だと信じています。皆さん、笑顔で楽しそうに笑っている人を見ると、「いいなあ」と思わないですか。ただ自分自身の経験だけかもしれないけど、私は笑っている友達を見て、元気をもらって、心が癒されていつの間にか晴れるようになります。だからこそ、私も素直に、楽しそうに、笑えるようになると、周りの人々に元気を伝えられて、同じ国の人だけではなく、日本人の友達もどんどん寄ってくると思います。しかし、言うまでもなく、日本人と中国人は異なる文化や考え方を持っているので、交流するとき、揉めるのはありふれたことです。時々、不適切なことを言って、自分が知らないうちに相手を傷つけることや、失礼なことを言ってしまって、日本人の相手に怒られることもあるかもしれないです。しかし、もし笑顔で素直で自分の好意を伝えて、時々不適切な言葉を使っても、相手は気にしなくて許してくれると思います。一方、もし無表情あるいはしんどい顔をして、相手の気持ちを重くさせがちにし、失礼なことを言ったら、相手はすぐ気にすると思います。日本人の友達と交流するとき、いつも相手が目に見てくれるのは、自分がいつも元気で笑っているからではないかと思っています。

これからも、周りの人に元気を伝えられるように、毎日笑顔で生きようと思います。なぜなら日本人だけではなく、いろいろな人と交流するとき、笑顔は最強の武器だと考えているからです。日本人との交流経験は笑顔のすばらしさ、大切さを教えてくれました。これは私の一生の宝物になると信じています。

<奨励賞> 日本のお辞儀の文化



工学研究科 D3 年
ラム・ティ・ション・ビン (ベトナム)

皆さん、こんにちは。ラム・ティ・ション・ビンと申します。ベトナムから参りました。2年前に日本に来てから、日本語を始めました。よろしくお願ひします。今日のスピーチは日本のお辞儀の文化と言う事です。

学生の時、ベトナムで富士通の会社を見学した事があります。日本人の課長は会社を紹介するために、会議室に入った時、椅子に座っているベトナム人の係員はすぐ立って、それからお辞儀していました。そのお辞儀に、私たちは本当に驚きました。ベトナムでは敬意を表す時は、お辞儀じゃなくて、起立をします。ベトナムの学校で、先生は教室に入っ

た時、敬意を表す時、生徒たちは起立して、授業を始めます。また、主人が生まれたナイジェリアでは、生徒たちは起立して、班長が指で机を 1 回ノックして、授業を始めます。そのノックは「静かにして下さい」と「注意して下さい」という意味です。ところが、日本の学校では、どうでしょうか？先生が教室に入った時、生徒たちはお辞儀しなければならないのでしょうか？

外国へ行ったことがなかったベトナム人である私はお辞儀のような日本文化について知識は少ないです。2年間大阪に住んでいることで、知らなかったお辞儀の文化がちょっと分かるようになりました。

日本では、お辞儀には会釈、敬礼、最敬礼の 3 つがあります。まず会釈ですが、これはすれ違い様にするお辞儀です。お辞儀の角度としては 15 度が目安です。次は腰を 30 度ほど曲げるお辞儀で、これを敬礼と言います。ビジネス上で最も一般的とされ、来客への挨拶などで使用されます。より敬意を表すためには、45 度ほど腰を曲げてお辞儀をします。これを最敬礼と言います。その場合は、感謝や謝罪やお願いする時に使われます。しかし、日本とアメリカの政治会談についてのニュースでは、オバマ大統領が天皇にお会いする時、90 度ほど腰を曲げてお辞儀をしました。それはなぜでしょうか。答えは天皇など非常に身分の高い人物にお会いする時、または重大な失敗など犯して謝罪する時には、90 度腰を曲げることもあるからです。

いくら何回も日本人のお辞儀を見ても、私はうまく挨拶できませんでした。でも、最近、日本のお辞儀について話した時、友達が正しいお辞儀を教えてくれて、本当に、良かったと思います。自分は日本に来たばかりの頃は「ありがとう」と言う時や「すみません」と言う時にお辞儀を全然しませんでした。今ではそういう時にもお辞儀をするようになりました。日本人は政治だけでなく、仕事でもスポーツでも営業でもお辞儀をしています。例えば、2014 年ワールドカップの最後の試合では日本のサッカー選手はサポーターにお辞儀をしました。その行為は感謝を伝えるためだと思いました。また住んでいる家の前で、道路工事をしているところを通ると、工事のおじさんがお辞儀をしている絵の看板がいつもあります。

お辞儀についていろいろな経験をしたことで、相手の気持ちを考えるのは大切なことである、ということがわかりました。そうすると人間関係もスムーズにいきやすくなります。それで、日本に住むつもりがあったら、外国人はお辞儀がきちんとできることが必要だと思っています。お辞儀から、日本のきれいな人間像を認識できました。ベトナムへ帰った時、ぜひ友達と家族にお辞儀を教えます。決して日本に住んでいた時間を忘れません。

大阪府立大学
第 21 回留学生日本語弁論大会
寄附者名簿

堺市内 11 ロータリークラブ

- 堺ロータリークラブ
- 堺東ロータリークラブ
- 堺フラワーロータリークラブ
- 堺泉ヶ丘ロータリークラブ
- 堺中ロータリークラブ
- 堺北ロータリークラブ
- 堺おおいずみロータリークラブ
- 堺フェニックスロータリークラブ
- 堺青陵ロータリークラブ
- 堺南ロータリークラブ
- 堺東南ロータリークラブ

国際ソロプチミスト堺（団体および個人）

(順不同)

大阪府立大学
第 21 回留学生日本語弁論大会
報告書

大阪府立大学留学生後援会
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号
大阪府立大学 国際交流課
電話 072-254-8142 FAX 072-254-8145